

2022年度以降の入学対象カリキュラム  
授業科目の概要

(保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	配当年次	
総合教育科目	人間とコミュニケーション	コミュニケーション論	ケアや社会福祉援助では、つねに人と人との関係性のあり方が問題となる。人間存在と人間関係、社会的相互作用と社会的役割の理解の上に、医療を受ける人々を一人の人間として、心から大切にしようとする「誠実さ」と、それに支えられた「出会い」によって、対話が成立し、医療を受ける対象およびその家族の理解が充実発展でき、より良い関係を築く基礎を学修する。	1年後期
		チーム医療論Ⅰ	医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することを理解する。チーム医療実践例を提示し保健、医療、福祉を含め、地域で生活する人や患者・障害を抱える人の問題に対するチームアプローチの基礎的知識を学修する。	1年通期
		チーム医療論Ⅱ	チーム医療論Ⅰでの基礎的知識を基盤とし、保健医療学部（看護学科・リハビリテーション学科）と薬学部合同で、臨地実習で得た経験を統合し、各々の専門性を自覚して情報を共有して業務を分担し連携協働する方法を学修する。	4年後期
		英語Ⅰ	高等学校で学んだ基本的事項を確認しながら、さらに高度な英文の文化に触れるとともに、まとまりのある文章の概念や要点をできるだけ速く、多く読み取るといふ高度な読解力を養い、目的に応じた読みを可能にすることを目的として学修する。	1年前期
		英語Ⅱ	医学英語の知識をつけ、医療専門家としてのコミュニケーションの基礎（読み・書き）を身に付ける。 医療に関わる基本用語（英語・英語表現）を修得する。	1年前期
		英語Ⅲ	医療の臨床実践に必要な用語や表現、外国人患者と接する際に必要な英語や心構え、医療従事者間での英語によるコミュニケーションについて学ぶ。	2年前期
		中国語	中国語の基礎的知識を学修するとともに、中国の文化についても触れながら日常的なコミュニケーションを身につける。	1年前期
		韓国語	韓国語の文字と発音および基礎的な文法を学修するとともに、韓国の文化についても触れながら、日常的なコミュニケーションを身につける。	1年前期
	人間と文化	文学	文学の概念と日本の代表的な韻文を中心に学修する。様々な形態の韻文を味わいながら、文学的価値を学修することを通して、時代背景や個々の文学の特徴をとらえるとともに、そこから日本の伝統美、ことばの美しさ、ことばのリズム、日本人の美意識について理解するとともに文学の基礎的な力、感性を養い、その過程で表現する能力を身につけるよう学修する。	1年前期
		教育学	教育学の基本的な概念や知識、今日の教育における諸問題について学修する。具体的には、教育学の歴史的展開、今日まで教育学が果たしてきた役割を踏まえ、人間の成長と教育の意義、教育の目的、家庭教育、生涯学習支援の社会教育、学校教育の制度、学習指導、生活指導と教育評価および特別支援教育の推進について学修する。	1年後期
		文化人類学	我々人間が無意識のうちに認識し実践している文化は、社会によって極めて多様であり、ある社会にとつての常識が別の社会ではそうではないことがめずらしくない。文化人類学とは、そのような文化の多様性を認識しつつ、共通の理解が可能な普遍性も求めていく学問である。授業では、毎回一定のテーマに沿って様々な文化的事象の解説と事例研究を行い、文化相対主義的な考え方を学ぶ。	4年前期
		国際保健医療論	進行するグローバル化の中で、世界の医療分野で活躍できるような人材を育成するために、開発国と開発途上国での保健医療の実態と主体的関わり方を学ぶ。また、WHOの役割とその実際の成果を学ぶ。ワークショップを通して日本の看護師、理学療法士、作業療法士が特にアジアやアフリカの開発途上国で何ができるかを考え（援助の方法）、まとめる。	2年後期
		音楽論	芸術領域である音楽を広く理解し、音楽を取り入れた療法への知見を学修する。具体的には音楽が持つ生理的、心理的、社会的働きを意図的・計画的な活用方法を学修する。また、音楽療法における個人の幸福や人間的成長を追求することを通して、心身の障害の回復、健康維持機能の改善と健康増進および生活の質向上への支援方法の基礎を学修する。	1年後期
		人間と健康	年代、体力、障害等を考慮した身体運動の必要性及び指導上の注意事項に関する基礎的知識を理解する。QOLを高めるための体力測定、体操、各種スポーツの基礎的能力を身につける。	1年通期

Ⅱ 授業科目の概要

## 2022年度以降の入学対象カリキュラム 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	配当年次
人間と情報	情報リテラシー	コンピュータを有効に活用するための能力(コンピュータリテラシー)を身につける。現代社会における情報と、ICT(Information and Communication Technology)の意義について理解し、情報を収集・活用していくための方法と技術を修得する事を目的とする。	1年前期
	保健統計学の基礎	自然現象や社会現象を統計学的に観察・分析するために、データの種類と分布、測定と尺度、確率分布、代表値と散布度など統計学の基本的な概念と方法を学修する。さらに、健康の指標となる人口統計や保健統計について学び、国内外の健康問題について学修する。	2年前期
人間と環境	法学(含日本国憲法)	我が国の法の核である日本国憲法を中心に我が国の法体系全体と法の仕組みとはたらきを学修する。また、大学生が教養として持つべき基本的な法に関する知識について学修する。その際必要に応じて、現実起こった問題に対して自ら考察できるように、民法、刑法などの重要な法律の概要および裁判員制度などを含めて学修する。	1年前期
	生物学	生物にかかわる現象を研究する生物学を通して、生物の本質と生命観を学修するとともに、ヒトとその他の動物を比較しながら、生態系、細胞の構造、骨格、消化、吸収、排泄および生殖・発生・進化などについて学修し、生物学的にヒトはどのようなものかを探求し人の理解を深める基礎とする。	1年前期
	物理学	自然を支配する基本的法則のうち、力学、流体、波動、電磁気学の分野について、生体の機能に関係した物理現象を例にして学ぶ。具体的には物体の位置と速度・加速度、質量・重さ・重力、力と加速度・仕事と力学的エネルギー・力のモーメント・温度と気体の法則・力と圧力・生体の発生する電気信号等について学ぶ。	1年前期
	生化学	人体の生命現象を科学的方法で解明するために、生体を構成する糖質、脂質、タンパク質等の物質を理解すると共に、それらの生体内の物質代謝とエネルギー獲得、および遺伝情報とその発現について学修する。	1年後期
	環境論	環境保全は21世紀に生きる人類にとって、その存亡をかけた最大の問題である。環境問題とは何か。環境保全の歴史、環境問題が地球全体にかかわる問題であることを学修し、その問題にどう対処するかを現代人として論考できる能力を養う。	1年前期
	放射線概論	臨床現場で必要とされる放射線の知識および放射線治療総論、放射線による障害と防護や放射線の身体への影響について学修する。さらに放射線画像の基礎を学修する。また、発がんへの心理的・社会的問題についても学ぶ。	1年後期
	哲学	文明の発祥から現代に至るまでの東西を問わず先人の哲学思想を通して、人間とは何か、生きるとは何かについて思索する。「哲学を学ぶことの意義、科学と宗教と哲学、私であるということ、物質と生命の神秘、身体と精神、自由、および美しく善く生きること」等の学修内容を通して、「生きること」や「存在の意味」について、主体的に深く思索する姿勢と建設的批判力を身につけ、自己の人間観や世界観を醸成できることを目的とし、幅広く人間を理解する能力を養う。	1年後期
人間の 本質と 尊厳	生命倫理学	現代医療は生命倫理の土台の上に成り立っている。この講義では、生命倫理学の成立の歴史を含め、医療人として必要な生命倫理学の基礎的知識や倫理綱領について学修する。また、医療技術の進歩に伴い生じる生命倫理上の重要ないくつかの問題を取り上げることにより、その本質や最近の動向を理解するとともに、それらについて医療職が果たすべき役割を学ぶ。	1年後期
	社会学	社会的行為、社会的集団、地位と役割、文化などの社会学の基本概念を理解するとともに身近な社会現象である家族や職場、地域社会、健康問題、福祉、倫理問題など、現実の社会や社会問題がどのように分析され、理解されているかを学修する。	1年後期
	ジェンダー学	ジェンダーは生物学的な性差に付加された社会的・文化的性差のことであり、個人の生きづらさや多様な社会課題と深く関係しており、医療従事者として不可欠の視点である。授業では、ジェンダー概念の基本と国内外の動向について学ぶとともに、家族・教育・労働・災害・暴力・メディアなどの具体的なテーマを通して、実践的な理解を深める。	1年後期
	人間の行動と心理	心理学は、人間の行動の法則性に関する科学である。本教科では、知覚、欲求、思考、学習、人格、記憶などの心理学の基礎から、発達の心理について学修する。また、性格検査、知能検査、カウンセリングなどの医療と心理学について学修する。さらに、人間の一生涯の行程を発達のプロセスとしてとらえ、心身の発達および人格の成熟、発達課題と諸問題について学修する。	1年前期

2022年度以降の入学対象カリキュラム  
授業科目の概要

(保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	配当年次
総合教育科目	人間の 厳 の本質と尊	ボランティア学	1年後期
専門基礎科目	人体の 構造と 機能・ 疾病の 成り立 ちと回 復	人体の構造・機能Ⅰ	1年前期
		人体の構造・機能Ⅱ	1年後期
		病態学Ⅰ	2年前期
		病態学Ⅱ	2年前期
		病態学Ⅲ	2年後期
		病態学Ⅳ(精神)	2年後期
		病態学Ⅴ(母子)	2年通期
		微生物学	1年前期
		病理学	1年後期
専門基礎科目	健康 支援と 社会保 障制度	現代医療論	1年後期
		薬と毒性学入門	1年後期
		臨床心理学	2年前期

Ⅱ 授業科目の  
概要

## 2022年度以降の入学対象カリキュラム 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	配当年次
専門 基礎科目	健康 支援と社会 保障制度		
	臨床栄養学	生命を維持し、成長、生活活動が続けるのに必要な食物と栄養について、栄養学の側面から学ぶ。また、今日の食生活の現状と栄養問題（生活習慣病・過剰ダイエット）や、傷病者、高齢者にみられる低栄養などに対する食事療法・食事指導の基礎を学修する。	2年前期
	関係法規	法の内容、法の意義、目的を踏まえ、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律など看護職に関連する法規について学修するとともに、医療法その他関連職種の資格などに関する法律について学修する。さらに、他職種と協働して保健医療福祉活動を推進するうえで欠かせない法令について広く学修する。	2年前期
	社会福祉論	現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉の原理をめぐる理論と哲学、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題、相談援助活動と福祉政策との関係について学ぶ。	2年後期
	公衆衛生学	公衆衛生の概念及び歴史を踏まえて、健康の指標、人口問題と公衆衛生、衛生統計、疫学、医療・保健・福祉における衛生行政、労働衛生および環境衛生・公害及び公衆衛生の国際協力等について学修する。また、疾病予防と健康管理、地域保健と衛生行政、学校保健、産業保健および健康成立の要因と保健活動、人間を取り巻く環境と公衆衛生活動の意義と役割と組織的な公衆衛生活動について学修する。	2年前期
	疫学Ⅰ	疫学の内容、因果関係、指標、曝露など疫学で使用される基本用語について学習する。具体的には、疫学の内容と、疾病頻度・暴露効果の指標、疫学調査、疾病登録、および、主要な疾患の疫学について学修する。さらに、エビデンスに基づく看護実践のための疫学研究結果の活用について学修する。	2年後期
	疫学Ⅱ	疫学の基本的な概念と方法を踏まえ、保健師が対象とする健康課題を解決するために必要な疫学調査法、社会疫学、政策疫学、臨床疫学、産業保健の疫学を学修する。それにより、具体的なデータを用いた疾病頻度や暴露効果の指標等の計算、適切な推論など疫学の知識・手法を用いて健康課題を分析し関係者や住民への適切な情報提供ができることを理解する。	2年後期
	保健行政論	保健医療福祉行政の基礎知識、地域における健康問題とその解決に必要な社会資源と保健医療福祉サービスおよびその評価・調整する基礎的な方法について学習する。特に保健医療福祉行政の根拠、保健医療福祉行政の目指すもの、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションを中心に、保健医療福祉における課題と政策の発展について学習する。	2年前期
保健医療情報処理論	医療の電子化に伴い、増大した保健医療情報のしくみについて理解する。保健医療情報には有用性と個人情報の保護の両側面があることを理解する。情報を有効活用する方法を学ぶとともに、情報活用にあたっては人権への配慮、プライバシー保護など倫理的配慮が必要であることについて理解する。	2年前期	
専門 科目	基礎 科目		
	看護学概論	看護学の根幹科目として看護の本質を探究し、専門職として看護学を学ぶための基礎的な知識について学修する。看護学を構成する概念、看護とは、看護の変遷、主な看護理論などについて学修する。また、看護の観点から全人的に捉える人間、健康の概念、環境と健康、生活・ライフスタイルと健康との関連、QOLとセルフケア、職業倫理、看護実践の方法、看護実践の組織化、多職種連携などの看護学の基礎的な知識を学び、人々の健康に寄与する看護職の役割・機能について学修する。	1年前期
	ヘルスアセスメント学Ⅰ	看護の観点から人々の健康状態についてアセスメントする意義と方法について学修する。ヘルスアセスメントの概要、看護過程におけるヘルスアセスメントの意義、バイタルサインの観察技術や問診の技術および系統的に身体面をアセスメントする技術に関する基礎的な知識について学修する。フィジカルアセスメントに必要な身体診察技術（視診・触診・打診・聴診）やバイタルサインの観察技術については、演習において実践力を養う。	1年後期
	ヘルスアセスメント学Ⅱ	ヘルスアセスメントⅠで学んだフィジカルアセスメントの技法を基盤とし、あらゆる年代やさまざまな場における看護の対象者の健康状態と生活への影響をアセスメントする方法を、より実践的に学ぶ。	2年後期
ヘルスアセスメント学Ⅲ	ヘルスアセスメントⅠ・Ⅱで学んだ知識と技術を基に、シミュレーター等を用いてより実践に近い状況を想定した演習を通じ、正常と異常の判断、緊急度の判断等の臨床判断能力を培い、対象者の状況に即したアセスメント・実施・評価の方法を学修する。	3年前期	



## 2022年度以降の入学対象カリキュラム 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	配当年次	
専 門 科 目	基 盤 科 目	ナーシングスキル学Ⅰ	コミュニケーション・安全管理・安楽確保・セルフケア・看護記録などに関する技術について、根拠に基づく看護を提供するために必要な基礎的な知識を学修する。また、生活行動に関する看護援助技術について学修する。環境を整える、食生活と栄養摂取、排泄、活動・休息、清潔・衣生活の援助技術などに関して、安全性・安楽性・自立性・個性などに配慮し、根拠に基づく看護を提供するために必要な基礎的な知識を学び、演習において実践力を養う。	1年後期
		ナーシングスキル学Ⅱ	侵襲を伴う診断や治療を受ける人々に対して、安全面や苦痛の緩和に配慮した根拠に基づく看護援助技術について学修する。呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬・輸血の技術、検査に伴う援助技術、手術に伴う援助技術、救命救急処置技術、感染予防の技術、排泄の処置における援助技術、人生の最終段階における援助技術などの基礎的な知識について学修する。さらに、演習において侵襲性の高い技術を安全面に配慮して実施する。	2年通期
		ナーシングプロセスⅠ	看護の対象となる人の個性に配慮した看護を提供するために必要な看護過程について学修する。対象となる人を全人的に理解するために必要な情報を収集し、その情報を分析・解釈した上で看護上の課題を導き出し、安全性・安楽性・自立性・個性などに配慮して看護計画を立案し、計画を基に看護援助を実施して評価する一連のプロセスについて学修する。	2年前期
		ナーシングプロセスⅡ	ナーシングプロセスⅠで習得した思考を基盤とし、あらゆる年代やさまざまな場における対象者への健康問題・課題への看護実践に活用できる能力を身につける。	3年前期
		地域・在宅看護学	看護の対象は地域に暮らす人々であること、そして、地域包括ケアシステムの推進により看護職の活動場が多様化していることに伴い拡大している看護の役割を学修する。学修内容は、地域・在宅看護の歴史の変遷とそれに関わる諸制度、在宅や施設、地域で行われているチーム医療、多職種連携・協働における看護の果たす役割、ヘルスプロモーションや予防、社会の動きとともに変化する看護の役割を含む。	1年後期
		生涯発達看護論	人の一生は発達のプロセスである。人は発達し続ける存在であることを踏まえて、心身の発達、人格の成熟、および発達段階における課題に関する基本的知識を修得するとともに、看護を行う上で必要となる対象とその家族の生活と健康課題について学修する。	1年後期
		看護倫理	看護の職業倫理を看護の実践に結びつけて学修する。看護の歴史と看護の職業倫理、人間の尊厳、人権、アドボカシー、正義の倫理、ケアの倫理など看護倫理の基本概念について学ぶとともに、看護師の倫理綱領や倫理の諸規定とその変遷、活用方法について学修し、医療をめぐる倫理問題で看護が負うべき責任について考察する。また、遭遇しやすい倫理的ジレンマの事例について、アクティブ・ラーニングを活用し、最良の判断を導く過程について学修する。以上の学びを通して、生涯にわたり倫理的感性を培っていく内容とする。	3年前期
		看護基礎ゼミ	大学で学ぶために必要なスタディスキル、アカデミックスキルを修得する。大学生の現状や諸問題を題材に取り上げ、求められる学士力と学修方法について検討し、今後の大学生活の見通しを立てる。	1年前期
専 門 科 目	応 用 科 目	臨床薬理看護学	薬理学の基礎知識を活用した薬物治療を受ける人の看護について学ぶ。治療効果と生活への影響のアセスメント、有害作用の早期発見と予防、誤薬の防止、服薬や治療に関する指導・説明、薬物治療に関わる多職種との連携・協働など、臨床現場で求められる知識、技術について学修する。	2年後期
		リハビリテーション看護論	リハビリテーションの理念を理解し、日本や海外におけるリハビリテーション看護について、歴史の変遷をふまえて基本的知識と技術を学修する。リハビリテーションチームの特徴とチームにおける看護の役割・機能について学修する。	3年前期
		成人看護学	成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに、成人期の人々に特徴的なライフスタイルや健康課題、および成人期の人々を取り巻く医療・保健・福祉のシステムについて学ぶ。そして、急性期、回復期、慢性期、終末期といった、さまざまな健康レベルにおける看護に適用するための概念や理論について学修する。	2年前期
		成人看護方法論Ⅰ	入院治療を必要とする成人期の患者の特徴を学び、合併症を予防し、回復を促進する援助の方法を学修する。急性発症あるいは慢性疾患の急性増悪により集中治療管理を必要とする人や周手術期にある人の病態を学び援助に活かす。	2年後期

## 2022年度以降の入学対象カリキュラム 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	配当年次
専 門 科 目  応 用 科 目	成人看護方法論Ⅱ	慢性的・長期的に経過する健康障害を持つ人のセルフケアを促進し、その人らしい生活を維持するための支援の方法について学修する。さらに、ターミナル期にある人とその家族に対するケア、遺族へのグリーフケアについて学修する。	3年前期
	老年看護学	老いを生きる人々の理解、高齢者の生活と健康を支援する看護の基本的な考え方と関連する知識を学修する。予防からエンドオブライフケアまでの健康レベルの連続と、病院、施設、居宅等の生活の場の移行の中で展開される地域包括ケア時代の老年看護学について概要を理解する。	2年前期
	老年看護方法論	加齢変化や高齢者に特徴的な健康障害を意識した看護方法について学ぶ。高齢者の日常を理解するとともに、その人らしい生活の継続・健康の保持増進を可能とするケア、生活を豊かにするケアについて生活行動モデルを用いて理解を深め、高齢者の看護方法について学修する。	2年後期
	小児看護学	小児看護の歴史的背景を基に、現代社会における小児看護の理念や特徴及び子どもと家族を取り巻く社会の概要を学ぶ。また、子どもの成長発達の原理原則および各期の子どもの特徴を形態的・機能的・心理社会的側面から多角的に捉えるとともに、子どもが健康に育つための具体的な援助について学修する。	2年後期
	小児看護方法論	既習の子どもの成長発達や疾病に関する知識を基盤として、子どもとその家族の健康課題を総合的に理解し、小児看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度について学修する。子どもが健やかに成長発達をとげる上で重要な遊びについて学び、看護の視点から健康レベルに配慮した入院中の子どもの遊びについて学修する。	3年前期
	母性看護学	女性の生涯を通じた母性の健康の保持・増進、及び次世代の健全育成を支援するため、母性看護の基盤となる概念や理論を理解する。また、母性看護の対象をとりまく社会の変遷と現状、母子の健康に関する国際比較や法制度、女性のライフサイクルや健康問題などを学び、母性看護の役割や課題について考察する。	2年後期
	母性看護方法論	周産期の母子とそのパートナーを中心とした家族の健康に焦点を当て、対象の生理的な変化と特徴、適応過程を全人的に理解する。それを基に正常な経過を助長するための看護援助と正常を逸脱しないための予防的な関わり、母親役割獲得及び家族の発達を促す看護について学修する。	3年前期
	精神看護学	精神看護学の対象や基本となる概念、精神看護を実践する上で基盤となる人間関係論、セルフケア論、ストレングスモデルなどの理論・モデルについて学修する。また、精神看護における倫理的諸問題と法的根拠、精神看護の活動の場や専門性について学修する。さらには地域精神保健活動の国内外の動向について概観し、日本の精神保健活動の課題について探究する。	2年後期
	精神看護方法論	精神看護学での学びを基に、精神障害がある人とその家族を理解し、状態の安定維持に向けた看護援助の方法について学修する。具体的には、様々な精神障害にある人の看護および主な精神症状に対する看護について学ぶ。また精神障害のある人の社会復帰に向けた援助と社会適応やリカバリーをめざして生活を維持していくための支援方法について学修する。さらに活用できる諸制度、マンパワー、チーム医療等の社会資源の活用方法についても学修する。	3年前期
	在宅看護方法論	在宅療養者の自立支援に対する考え方や対象者との信頼関係の構築、療養生活の安定を図るための日常生活援助技術、医療依存度の高い療養者に対する在宅支援、在宅療養生活における健康危機管理や感染予防、在宅療養者とその家族を中心とした多職種連携の実際などについて学修する。また、様々な発達段階にあり健康上の課題をもって生活している在宅療養者とその家族・介護者に対するエビデンスに基づいた訪問看護の思考過程について学修する。	3年前期
地域看護方法論	在宅や施設等多様な生活の場と人々の健康および生活の関係、社会資源や制度の基本を理解し、あらゆる健康レベルの人々に健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復を目指して実践する看護の展開方法を学修する。	2年後期	

## 2022年度以降の入学対象カリキュラム 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	配当年次
専門科目 発展科目	災害看護学	災害医療の基本的な対応体制、災害看護における看護師の役割りの実際について学び、市民としての災害時の行動、医療従事者としての基本的な対応方法、および災害発生時に求められる看護技術を修得する。具体的には、災害に対する政策、災害の分類、災害サイクル、災害時の心身の健康障害、災害後の心の状態とケア、トリアージの方法、災害時のアセスメントなどについて学ぶ。また、自然災害と生物災害（感染症パンデミック）や自然災害と人的災害（テロ）等の複合災害についても学修する。	3年前期
	国際看護学	グローバル化の進む社会において、人間の安全保障の側面から、看護職が国内外で果たすべき役割を学ぶ。また、日本における女子教育発祥の地であり、外国人と接する機会が多い横浜の地域特性を活かし、他国の人々の社会背景や生活環境に関心をもち、看護職が寄与できる健康支援について学ぶ。さらに、“UniversalHealthCoverage”の目標を達成するための解決方法について国際保健医療協力の観点から学修する。	4年前期
	看護管理学	看護専門職として管理に関する基礎的知識を修得し、看護管理上の問題を解決する方策の検討方法を学ぶ、(リーダーシップ、マネジメントを含む)また、医療の国際的動向と我が国の特色を理解し、医療システム、医療ケアの質に関する概念を学ぶ。看護者としてのリーダーシップ、調整、カウンセリング、コンサルタン、教育意志決定などの臨床実践能力を構築するための理論を体系的に学び、看護マネジメントに関する視点および実践能力を高める。	3年前期
	看護研究	看護研究の目的と意義、倫理的配慮の重要性、看護実践と研究の関連性、研究の進め方など看護研究の基礎的事項について学修する。興味あるテーマに関する文献検索および既存文献のクリティークを通して、看護の質向上に欠かせない研究活動について学修する。	3年前期
	プロフェッショナル論Ⅰ	プロフェッションとは「自律性」「自己統制の信念」「専門職業組織への準拠」「公共サービスへの信念」「専門分野への召命感」で構成される。はたして看護はプロフェッションであるか。学生は自らのプロフェッションの将来像に向けて主体的に取り組む基礎的能力を学修する。	2年後期
発展科目	プロフェッショナル論Ⅱ	プロフェッショナル論Ⅰを基盤として、社会で活動する看護プロフェッション(専門看護師、離島や海外で自立して活動する看護職、起業家看護職等)との交流を通じて臨地実習で培うべき自己の課題を明らかにする。	3年前期
	プロフェッショナル論Ⅲ	プロフェッショナル論Ⅰ・Ⅱで明らかにした自己の目標や課題を振り返り、さらに看護の専門分野を知ること、将来にわたってプロフェッショナルリズムを自己啓発し続ける力(自己教育力)を身につける。	4年後期
	保健医療看護の最前線	社会で起こっている保健医療看護に関連した出来事について、基礎的知識を学ぶとともに、臨床現場での課題と対処について学修する。	4年前期
	看護応用ゼミ	既習の知識と臨地での学びを関連させ、さまざまな疾病・治療・看護を統合する。さらに、看護専門職としての自己の課題を認識し、キャリア形成に必要な基礎力を身につける。	4年通期
専門科目 臨地実習	看護基盤実習Ⅰ	地域で生活する様々な発達段階なる人との交流を通して、コミュニケーションによる関係性構築を学び、生活環境と健康のつながり、入院や入所が対象者や家族に与える影響について、看護の視点から理解する。	1年前期
	看護基盤実習Ⅱ	健康障害をもちながら入院生活を送る対象者を理解し、援助的コミュニケーション技術を実施しながら必要な治療・看護について学修する。加えて対象者への看護を通して他職種役割を理解する。	2年後期
	ヘルスプロモーション実習	地域で生活する人々の環境やライフスタイルと健康との関連を考え、個々の健康の保持・増進のために必要な支援を学修する。さらには地域で生活する人々が活用可能な保健・医療・福祉に関連する社会資源を理解する。	3年後期
	急性期看護実習	急激な健康状態の変化をきたした対象者および家族に対して、身体的および心理社会的側面からアセスメントして、ケアの優先順位を判断し実践及びその評価を行う。一連の看護過程の展開を通して、急性期看護について学修する。	3年後期
	慢性期看護実習	慢性疾患を抱えあらゆる場で療養・生活している対象者及び対象者を取り巻く人々がその人らしく生きることができるよう地域包括ケアにおける医療チームの一員として、安全かつ個々の健康の維持・増進とQOLの向上を目指した看護を学修する。	3年後期

2022年度以降の入学対象カリキュラム  
授業科目の概要

(保健医療学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	配当年次
専門科目	臨地実習	統合実習	これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、実践現場に近い体制の実習を通して医療チームの一員としての役割とその実際について学修するとともに、看護専門職としての自己の課題を明確にする。	4年前期
公衆衛生看護学科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学	公衆衛生看護の概念と歴史、基盤となる知識、活動領域について学修する。公衆衛生看護管理については構成要素、専門的自律と人材育成方法について学修する。具体的には、公衆衛生看護管理の目的と機能、情報管理、地域ケアの質の保証、人事管理、予算管理、組織運営と管理および保健師教育についてを含む。	3年通期
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	公衆衛生看護における対象の捉え方、健康課題の特徴について学び、ライフサイクル・健康課題ごとの対象別の公衆衛生看護過程展開と活動方法について行政の保健活動を中心に学修する。その内容を踏まえ、産業保健および学校保健の歴史の変遷、諸制度、対象、保健師の職務・役割ならびに活動展開の実際、将来展望について学修する。 養護教諭の活動の実際についても学修する。	3年通期
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	公衆衛生の目的である社会の健康に関連する、保健・医療・福祉の制度やシステム、関係機関や社会資源、健康危機管理の理念と目的、各種制度、関係法令や行政や関連機関との連携、危機管理の対象や健康危機管理における保健師の役割・機能、保健活動の実際について、講義と演習により学修する。	4年通期
		公衆衛生看護学演習	個別から集団までを対象とした公衆衛生看護活動における、アセスメント、コミュニケーション、生活支援や健康支援、地域診断、施策化と事業化、社会資源の開発、システム化について、演習を通して具体的に学修する。	4年通期
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	神奈川県内の保健所等行政機関における各種保健福祉事業の見学・活動の一部への参加経験を通して、公衆衛生看護の理念、対象、活動方法に関わる知識や技術を統合し、公衆衛生看護活動を実践する上での基盤となる能力形成を行う。加えて、保健師としての使命や責任について考える。	4年前期
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	多様な公衆衛生看護活動の場において、各種事業の見学・活動の一部への参加経験を通して、公衆衛生看護学実習の学びである知識や技術を統合を統合する。	4年通期



## Ⅱ-2. 授業科目の概要

<2021 年度以前入学者>



2019年度～2021年度入学対象カリキュラム  
授業科目の概要

(保健医療学部看護学科)

Ⅱ 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	配当年次
人間とコミュニケーション	コミュニケーション論	ケアや社会福祉援助ではつねに人と人との関係性のあり方が問題となる。人間存在と人間関係、社会的相互作用と社会的役割の理解の上に、医療を受ける人々を一人の人間として、心から大切にしようとする「誠実さ」と、それに支えられた「出会い」によって、対話が成立し、医療を受ける対象およびその家族の理解が充実発展でき、より良い関係を築く基礎を学習する。	1年前期
	チーム医療論	前半はふれあいグループ関連施設で実施される褥瘡対策・緩和ケア・在宅医療等のチーム医療実践例について学び、臨地実習・臨床実習で得た知識と経験を集約する。後半では演習形式で模擬ケースに必要な医学的ケア・社会資源の活用についてグループで議論する。本演習では、教員があらかじめチームの構成を指定するのではなく、学生同士でケースを支援するため時期に応じたチームとしての目標設定と構成メンバー、協力体制のあり方までを議論して発表する。	4年後期
	英語Ⅰ	高等学校で学んで基本的事項を確認しながら、さらに高度な英文の文化に触れるとともに、まとまりのある文章の概念や要点をできるだけ速く、多く読み取るという高度な読解力を養い、目的に応じた読みを可能にすることを目的として学習する。	1年前期
	英語Ⅱ	医学英語の知識をつけ、医療専門家としてのコミュニケーションの基礎（読み・書き）を身に付ける。 医療に関わる基本用語（英語・英語表現）を修得する。	2年前期
	英語Ⅲ	医療の臨床実践に必要な用語や表現、外国人患者と接する際に必要な英語や心構え、医療従事者間での英語によるコミュニケーションについて学ぶ。	2年後期
	中国語	中国語の基礎的知識を学習するとともに、中国の文化についても触れながら日常的なコミュニケーションを身につけることを目指す。	1年前期
	韓国語	韓国語の文字と発音および基礎的な文法を学習するとともに、韓国の文化についても触れながら、日常的なコミュニケーションを身につけることを目指す。	1年後期
総合教育科目	文学	文学の概念と日本の代表的な韻文を中心に学習する。様々な形態の韻文を味わいながら、文学的価値を学習することを通して、時代背景や個々の文学の特徴をとらえるとともに、そこから日本の伝統美、ことばの美しさ、ことばのリズム、日本人の美意識について理解するとともに文学の基礎的な力、感性を養い、その過程で表現する能力を身につけるよう学習する。	1年前期
	教育学	教育学の基本的な概念や知識、今日の教育における諸問題について学習する。具体的には、教育学の歴史的展開、今日まで教育学が果たしてきた役割を踏まえ、人間の成長と教育の意義、教育の目的、家庭教育、生涯学習支援の社会教育、学校教育の制度、学習指導、生活指導と教育評価および特別支援教育の推進について学習する。	1年後期
	文化人類学	我々人間が無意識のうちに認識し実践している文化は、社会によって極めて多様であり、ある社会にとっての常識が別の社会ではそうではないことがめずらしくない。文化人類学とは、そのような文化の多様性を認識しつつ、共通の理解が可能な普遍性も求めていく学問である。授業では、毎回一定のテーマに沿って様々な文化的事象の解説と事例研究を行い、文化相対主義的な考え方を学ぶ。	1年前期
	国際関係論	国際関係論の学問的背景を理解し、リアリズム、リベラリズムなど国際問題を理解するうえで基本となる諸概念について学習する。国際社会で生起する諸問題のうち、特に人々が安全で安心して生きていくための諸課題を国際的見地から考えられるような基礎づくりをする。	1年前期

カリキュラムマップ	国際保健医療論	進行するグローバル化の中で、世界の医療分野で活躍できるような人材を育成するために、開発国と開発途上国での保健医療の実態と主体的関わり方を学ぶ。また、WHOの役割とその実際の成果を学ぶ。ワークショップを通して日本の看護師・理学療法士・作業療法士が特にアジアやアフリカの開発途上国で何ができるかを考え（援助の方法）、まとめる。	1年後期
	音楽論	芸術領域である音楽を広く理解し、音楽を取り入れた療法への知見を学習する。具体的には音楽が持つ生理的、心理的、社会的働きを意図的・計画的な活用方法を学習する。また、音楽療法における個人の幸福や人間的成長を追求することを通して、心身の障害の回復、健康維持機能の改善と健康増進および生活の質向上への支援方法の基礎を学習する。	1年後期
人間と健康	栄養学	生命を維持し、成長、生活活動を続けていくために必要な食物と栄養について、栄養学の側面から学ぶ。また、今日の食生活の現状と栄養問題である生活習慣病や若年女性、傷病者・高齢者にみられる低栄養障害者の治療や健康回復、健康維持および健康増進、疾病予防についてその基礎を学習する。	1年前期
	薬理学	疾病の回復促進において薬物療法は重要な役割を果たしている。本教科では、薬理学の総論および各論の基礎的知識を学習し、薬物治療の目指すもの、薬物の作用機序を学ぶ。薬物治療における看護師の役割が重視されていることを踏まえ、薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取り扱いと管理について理解を深める。併せて臨床で多く用いられる代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、及び薬物の取り扱いとその安全管理について学習する。	1年後期
	社会福祉論	現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉の原理をめぐる理論と哲学、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題、相談援助活動と福祉政策との関係について学ぶ。	2年後期
	障害者スポーツ	対象者に適応させるスポーツ（Adapted Sports）という考え方のもと、全ての人に通じるスポーツ（Sports for All）やノーマライゼーションの理念をめざす上でより幅広い考え方を養うため、障害の特性とスポーツのかかわり、障害者のスポーツの意義や効果、歴史や現状、指導法等について学ぶ。また、内容は日本障害者スポーツ協会の初級、中級指導員資格カリキュラムに準じて行う。	1年前期・年後期
	レクリエーションスポーツ	年代、体力、障害等を考慮した身体運動の必要性及び指導上の注意事項に関する基礎的知識を理解する。高齢者を対象としたQOLを高めるための測定、体操、各種ニュースポーツの基礎的能力を身につける。	1年前期・年後期
	情報リテラシー	学習においてコンピュータを有効に活用するための能力（コンピュータリテラシー）を身につける。現代社会における情報と、ICT(Information and Communication Technology)の意義について理解し、情報を収集・活用していくための方法と技術を修得する事を目的とする。	1年前期
人間と情報	研究法入門	研究を行うに必要な研究の目的、対象の選び方と方法、結果の解析、関連論文の検索方法、研究発表の方法について学ぶ。さらに研究倫理についても把握する。またレポート作成・発表資料作成の基本的能力を身につける。	1年後期
	公衆衛生学	公衆衛生の概念及び歴史を踏まえて、健康の指標、人口問題と公衆衛生、衛生統計、疫学、医療・保健・福祉における衛生行政、労働衛生および環境衛生・公害及び公衆衛生の国際協力等について学習する。また、疾病予防と健康管理、地域保健と衛生行政、学校保健、産業保健および健康成立の要因と保健活動、人間を取り巻く環境と公衆衛生活動の意義と役割と組織的な公衆衛生活動について学習する。	2年前期
人間と環境	保健行政論	保健医療福祉行政の基礎知識、地域における健康問題とその解決に必要な社会資源と保健医療福祉サービスおよびその評価・調整する基礎的な方法について学習する。特に保健医療福祉行政の根拠、保健医療福祉行政の目指すもの、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションを中心に、保健医療福祉における課題と政策の発展について学習する。	2年前期
	法学(含日本国憲法)	我が国の法の核である日本国憲法を中心に我が国の法体系全体と法の仕組みとはたらきを学習する。また、大学生が教養として持つべき基本的な法に関する知識について学習する。その際必要に応じて、現実起こった問題に対して自ら考察できるように、民法、刑法などの重要な法律の概要および裁判員制度などを含めて学習する。	1年前期



総合教育科目	人間と環境	生物学	生物にかかわる現象を研究する生物学を通して、生物の本質と生命観を学習するとともに、ヒトとその他の動物を比較しながら、生態系、細胞の構造、骨格、消化、吸収、排泄、及び生殖・発生・進化などについて学習し、生物学的にヒトはどのようなものかを探求しヒトの理解を深める基礎とする。	1年前期
		物理学	自然を支配する基本的法則のうち、力学、流体、波動、電磁気学の分野について、生体の機能に関係した物理現象を例にして学ぶ。具体的には物体の位置と速度・加速度、質量・重さ・重力、力と加速度・仕事と力学的エネルギー・力のモーメント・温度と気体の法則・力と圧力・生体の発生する電気信号等について学ぶ。	1年前期
		生化学	人体の生命現象を化学的方法で解明するために、生体を構成する糖質、脂質、タンパク質等の物質を理解すると共に、それらの生体内の物質代謝とエネルギー獲得、および遺伝情報とその発現について学習する。	1年後期
		環境論	環境保全は21世紀に生きる人類にとって、その存亡をかけた最大の問題である。環境問題とは何か。環境保全の歴史、環境問題が地球全体にかかわる問題であることを学習し、その問題にどう対処するかを現代人として論考できる能力を養う。	1年前期
		放射線概論	臨床現場で必要とされる放射線の知識および放射線治療総論、放射線による障害と防護や放射線の身体への影響について学習する。また、発がんへの心理的・社会的問題についても学ぶ。	1年後期
総合教育科目	人間の 本質と 尊厳	哲学	文明の発祥から現代に至るまでの東西を問わず先人の哲学思想を通して、人間とは何か、生きるとは何かについて思索する。「哲学を学ぶことの意義、科学と宗教と哲学、私であるということ、物質と生命の神秘、身体と精神、自由、および美しく善く生きること」等の学習内容を通して、「生きること」や「存在の意味」について、主体的に深く思索する姿勢と建設的批判力を身につけ、自己の人間観や世界観を醸成できることを目的とし、幅広く人間を理解する能力を養う。	1年後期
		倫理学	倫理学は私たち人間の「よい（善良な）生き方」および「幸せな生き方」について考える学問である。然も自分だけの「善良（幸福）な生き方」ではなく、「倫」という語が意味する「秩序ある人間関係」すなわち社会全体が混乱せず、より「よく（幸福に）なる」ために各人はお互いにどう行動すればよいのかについて考える学問である。これらをとりわけ医療分野における問題を例にしながら医療における善悪の判断の基準や根拠について学習する。	1年前期
		社会学	社会的行為、社会的集団、地位と役割、社会変動、文化などの社会学の基本概念を理解するとともに身近な社会現象である家族や職場、地域社会、健康問題、福祉問題など、現実の社会や社会問題がどのように分析され、理解されているかを学習する。さらに生物学的な性とは別の、社会的・文化的な性である「ジェンダー」が私たちの社会・文化の中でどのように現れているかを学習する。	1年後期
		心理学	心理学は、人間の行動の法則性に関する科学である。本教科では、知覚、欲求、思考、学習、人格、カウンセリングなどの心理学の基礎から、発達の心理・医療と心理学について学習する。さらに、錯覚、記憶、学習、集団心理、性格検査、知能検査等についても学習する。	1年前期
総合教育科目	人間の 本質と 尊厳	発達心理学	人間の一生涯という全行程を発達のプロセス、すなわち人は発達し続ける存在としてとらえ、人間への深い理解と愛情を育むことができるように、心身の発達および人格の成熟、発達課題と諸問題について学習する。具体的には、社会的存在としての人びとの生涯的な発達過程を主としてライフコース論の視点から整理し、社会の変動と人びとの人生コースとの関連について学習する。	1年後期
		ボランティア学	少子高齢化や地方自治の深化に伴い、市民の自発的な活動（ボランティア活動）に対する期待や関心が高まっている。その領域は、従来の福祉や国際協力だけでなく環境や災害救援、まちづくりなど多岐に渡っており、非営利ではあっても無償ではない事業型NPOやコミュニティ・ビジネスも増えている。本講義では、そのようなボランティアの変化や意義を、時代背景から読みとくとき、受講者自らも行動できるような素養・知識の修得を狙いとする。	1年後期
		生命倫理学	生命倫理の成立の歴史を含め、医療人として必要な生命倫理学の基礎的知識を関連規程を含め学習する。また、医療技術の進歩に伴い生じる生命倫理上の問題について最近の動向を知るとともに、諸問題について医療職が果たすべき役割を学ぶ。	1年後期

専門基礎科目	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復	人体の構造・機能Ⅰ	解剖生理を学ぶ基礎知識として「人体の構造・機能Ⅰ」では、人体の素材としての細胞・組織レベルから学習し、動物機能である骨格系、筋系、神経系および感覚器系の運動システムを学習する。加えて、循環器系、呼吸器系のしくみについての知識も修得する。また、解剖実習見学を行う事で各臓器の位置を学習する。	1年前期
		人体の構造・機能Ⅱ	解剖生理を学ぶ基礎知識として「人体の構造・機能Ⅱ」では、植物機能の消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の生命維持システムと血液、発生について学習する。	1年後期
		病態学Ⅰ	主に、呼吸器系、循環器系、消化器系、血液・造血器系、内分泌・代謝系の主な疾患の病態、原因、症状、診断、検査、治療について学習する。	1年後期
		病態学Ⅱ	主に、脳神経系、運動器系、感覚器系、自己免疫・アレルギー性の主な疾患の病態、原因、症状、診断、検査、治療について学習する。さらに、救急処置、麻酔方法について学習する。	1年後期
		病態学Ⅲ	各疾患の原因・症状・診断・検査・治療等、基礎的な知識を学ぶ。病態学Ⅲでは、腎・泌尿器系疾患、男性生殖器、女性生殖器、乳腺疾患、及び周産期（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）に焦点を当てる。	2年前期
		精神病態・治療学	精神科領域にみられる主要な疾患の基礎知識と病態、症状、診断に必要な検査、治療について学修する。具体的には、精神機能の診かたや精神科で行う検査、統合失調症、気分障害、器質性精神障害、アルコール・薬物による精神・行動の障害、神経症性障害、ストレス関連障害等について学修する。	2年前期
		微生物学	生活環境において人体に感染症を引き起こす微生物（細菌・真菌・原虫・ウイルス）の性質、生態を含め病原微生物学の総論を学ぶ。また、感染と発病、感染防御のための免疫と感染予防、検査方法、治療等に関する基礎知識を学ぶ。	1年前期
		病理学	疾病の基本的な原因と病態の発生過程を病理学的観点より把握するために、奇形・退行性病変、進行性病変、炎症、腫瘍などの知識を学び、それらの病変が組織や臓器に現れた場合の疾患の成り立ちについて学習する。	1年後期
	健康支援と社会保障制度	現代医療論	生命とは、健康とは、病気とはなど保健・医療に携わる者に必要な医療の原点について学習する。また、医療の変遷を学ぶとともに、現代医療が抱えている諸問題とその特徴、変化する社会と医療のあるべき姿について展望する。西洋、日本、中国の医療の歴史、生命、健康、病気の考え方、現代医療における看護の役割、日本とアジアの医療体制、超高齢化社会と生命倫理、脳死と臓器移植、死の哲学等について学び、医療に関する考え方を熟成させていく。	2年前期
		臨床心理学	臨床心理学の基礎知識を学ぶ。ライフサイクルと心理臨床、臨床心理学で行うアセスメントの方法と臨床心理学的アプローチの方法について学習する。特に臨床心理学における人間へのアプローチについて学習するとともに、力動的立場を中心に据え基礎理論、対象理解、援助手法を学習することにより、看護師が直面する多様な問題への解決方法を身につける。	2年前期
		医療関係法規	法の概念、法の意義、目的を踏まえ、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律など看護職に関する法規について学修するとともに、医療法その他関連職種の資格等に関する法について学修する。さらに、他職種と協働して保健医療福祉活動を推進する上で欠かせない法令について広く学修する。	2年前期
		リハビリテーション概論	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みなどについて教授する。具体的にはリハビリテーションの歴史、定義から始まり、障害の分類と実態、リハビリテーションチームの役割、障害の受容、各制度上の問題点などについて概説する。また、医学的・社会的・職業的・教育的・地域的なリハビリテーションについて解説する。	2年後期
		臨床栄養学	ライフステージと栄養・食生活と健康との関係について学習する。その人にとって望ましい栄養・食生活を日常生活の中で継続することの重要性を認識する。栄養・食生活に問題がある場合に生じやすい健康障害についても学び、免疫力を高め、疾病を予防する方法についても学習する。さらに、さまざまな疾病を抱えた人の食事療法・食事指導ならびに指導効果を判定する方法について学習する。	2年後期

専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	疫学	疫学概念、因果関係、指標、暴露など疫学で使用される基本用語について学習する。具体的には、疫学概念、疾病頻度の指標、暴露効果の指標、疫学調査法、スクリーニング、疾病登録について学ぶとともに、がん、心血管疾患、脳血管疾患、糖尿病、感染症、難病など主な疾患の疫学等について学習する。さらに、保健活動に際しては、疫学研究の結果を活用し、エビデンスに基づく活動ができる学びとする。 また、保健師資格の取得を予定している学生のために、疫学調査法、社会疫学、政策疫学、臨床疫学、産業保健の疫学を含む内容とする。	2年前期
		保健統計学	データの種類と分布、測定と尺度、確率分布、代表値と散布度、関連指標など統計学の基礎を学ぶ。また、人口動態統計、人口動態統計、生命表、主な健康指標などの人口統計、根幹統計や医療経済統計などの保健統計調査、情報処理の技術、統計情報の活用方法等について学習する。さらに、国際疾病分類（ICD）、国際生活機能分類（ICF）などの疾病・障害の定義と分類について学び、自国民の健康問題のみならずグローバルな視点から人々の健康問題に関心が持てるようにする。 さらに、保健活動において、多種多様な数的データを正しく理解した上で実際に活用できる学びとする。	2年後期
		保健医療情報処理論	医療の電子化に伴い、増大した保健医療情報のしくみについて理解する。保健医療情報には有用性と個人情報保護の両側面があることを理解する。情報を有効活用する方法を学ぶとともに、情報活用にあたっては人権への配慮、プライバシー保護など倫理的配慮が必要であることについて理解する。	2年前期
専門科目I	基礎看護学	看護学概論	看護学の根幹科目として看護の本質を探究し、専門職として看護学を学修していくための基礎的な知識について学修する。看護学を構成する概念、看護とは、看護の変遷、主な看護理論などについて学修する。また、看護の観点から全人的に捉える人間、健康の概念、環境と健康、生活・ライフスタイルと健康との関連、QOLとセルフケア、職業倫理、看護実践の方法、看護実践の組織化、多職種連携などの看護学の基礎的な知識を学び、人々の健康に寄与する看護職の役割・機能について学修する。	1年前期
		看護倫理	看護の職業倫理を看護の実践に結びつけて学修する。看護の歴史と看護の職業倫理、人間の尊厳、人権、アドボカシー、正義の倫理、ケアの倫理など看護倫理の基本概念について学ぶとともに、看護師の倫理綱領や倫理の諸規定とその変遷、活用方法について学修し、医療をめぐる倫理問題で看護が負うべき責任について考察する。また、遭遇しやすい倫理的ジレンマの事例について、アクティブ・ラーニングを活用し、最良の判断を導く過程について学修する。以上の学びを通して、生涯にわたり倫理的感性を培っていく内容とする。	2年後期
		看護技術概論	看護援助に共通する基本的な技術について学修する。看護技術とは、コミュニケーション・安全管理・安楽確保・学習支援（セルフケア）・看護記録などに関する技術について、根拠に基づく看護を提供するために必要な基礎的な知識を学修する。	1年前期
		生活行動の援助技術	生活行動面に対する看護援助技術について学修する。環境を整える技術、食生活と栄養摂取の援助技術、排泄の援助技術、活動・休息の援助技術、清潔・衣生活の援助技術などに関して、安全性・安楽性・自立性・個別性などに配慮し、根拠に基づく看護を提供するために必要な基礎的な知識を学び、演習において実践力を養う。	1年後期
		ヘルスアセスメント	看護の観点から人々の健康状態についてアセスメントする意義と方法について学修する。ヘルスアセスメントの概要、看護過程におけるヘルスアセスメントの意義、バイタルサインの観察技術や問診の技術および系統的に身体面をアセスメントする技術に関する基礎的な知識について学修する。フィジカルアセスメントに必要な身体診察技術（視診・触診・打診・聴診）やバイタルサインの観察技術については、演習において実践力を養う。	2年前期
		診療に伴う援助技術	侵襲を伴う診断や治療を受ける人々に対して、安全面や苦痛の緩和に配慮した根拠に基づく基礎的な看護援助技術について学修する。呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬・輸血の技術、検査に伴う援助技術、救命救急処置技術、感染予防の技術、排泄の処置における援助技術、人生の最終段階における援助技術などの基礎的な知識について学修し、演習において侵襲性の高い技術を安全面に配慮して実施する。	1年後期



専門科目Ⅰ	基礎看護学	看護過程	看護の対象となる人の個別性に配慮した看護を提供するために必要な看護過程について学修する。対象となる人を全人的に理解するために必要な情報を収集し、その情報を分析・解釈した上で看護上の課題を導き出し、安全性・安楽性・自立性・個別性などに配慮して看護計画を立案し、計画を基に看護援助を実施して評価する一連のプロセスについて学修する。	2年前期
		基礎看護学実習Ⅰ	基礎的な看護学の知識を看護の実践に繋げ、医療・看護が療養者中心に行われることの重要性について、実際の看護場面の見学を通して学修する。療養者を全人的に捉えることの重要性を理解し、看護への関心を深め、より専門的な看護学の学修に意欲的に取り組めるような実習とする。	1年前期
		基礎看護学実習Ⅱ	担当する患者を全人的に理解するために必要な情報を収集し、その情報を分析・解釈した上で看護上の課題を導き出す。その課題のなかで主に生活行動面に関する看護上の課題に対して、安全性・安楽性・自立性・個別性などに配慮して看護計画を立案し、看護援助を実施して評価する。臨床の場において看護過程を経験することにより、個別性に配慮した看護を創造する意義を認識し、実践の科学としての看護学に対する理解を深める。	2年後期
専門科目Ⅱ	専門看護学	成人看護学概論	成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに、成人期の人々に特徴的なライフスタイルや健康課題、および成人期の人々を取り巻く医療・保健・福祉のシステムについて学ぶ。そして、急性期、回復期、慢性期、終末期といった、さまざまな健康レベルにおける看護に適用するための概念や理論について学修する。	2年前期
		成人看護学方法論Ⅰ	急性疾患や侵襲的治療など健康の急激な破綻をきたした成人期の患者、およびその家族の特徴を学び、苦痛の緩和および回復を促す看護について学修する。周手術期、救急、重症集中治療の看護を実践する上で必要となる、アセスメント、合併症予防、心理社会的援助について学ぶ。	2年後期
		成人看護学方法論Ⅱ	慢性疾患と共存していく成人期の患者、およびその家族の特徴を学び、セルフケアを促進しその人らしい健康生活を維持するための看護について学習する。疾病の進行をコントロールし、生活の再構築のために必要な、患者教育や多職種と連携した支援について学ぶ。	3年前期
		成人看護学方法論Ⅲ	成人期の人の看護事例を使用した看護過程を展開し、アセスメント、看護計画立案を行う。さらに、侵襲治療における看護技術、セルフケアを促すための看護技術を実践できるよう、技術演習により学ぶ。	3年前期
		成人看護学基盤実習	成人看護学実習ⅠおよびⅡの基盤となる実習であり、外来、救急初療室、手術室、集中治療室、リハビリテーション病棟、緩和ケア、透析室、地域連携室など医療施設におけるさまざまな部門の役割や特徴、看護の実際を見学を通して学ぶ。	2年後期
		成人看護学実習Ⅰ	周手術期の患者を受持ち看護の実践を学ぶ。身体的側面、心理社会的側面からアセスメントし、看護計画立案と実践を行う。患者および家族との信頼関係を築き、根拠に基づく看護実践およびその評価を行う。実習を通して自らの看護観をより深めるような学びとする。	3年後期
		成人看護学実習Ⅱ	慢性期、回復期、終末期の患者を受持ち看護の実践を学ぶ。身体的側面、心理社会的側面からアセスメントし、看護計画立案と実践を行う。患者および家族との信頼関係を築き、根拠に基づく看護実践およびその評価を行う。実習を通して自らの看護観をより深めるような学びとする。	3年後期
		老年看護学概論	老いを生きる人々の理解、生活と健康を支援する看護の基本的な考え方と関連する知識を学修する。予防からエンドオブライフケアまでの健康レベルの連続と、病院、施設、居宅等の生活の場の移行の中で展開される地域包括ケア時代の老年看護学について概要を理解する。	2年前期
		老年看護学方法論Ⅰ	加齢変化と高齢者に特徴的な健康障害に焦点をあて、これらによる生活へ影響、予防、治療、介護を必要とする高齢者と家族の生活および健康を支える看護について学修する。	2年前期
		老年看護学方法論Ⅱ	老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰの学修を基に、高齢者に適した日常生活の援助方法に関するシミュレーション学習を行い、高齢者の特徴と援助の実際、福祉用具の活用等について検討する。	2年後期



専 門 科 目 II	専 門 看 護 学	老年看護方法論Ⅲ	老年看護学概論、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱの学修を基に、老化や障害、慢性疾患に起因する生活行動上の困難によって療養生活を余儀なくされる高齢者の援助について学修する。具体的には、高齢者の特徴に合わせた看護過程の展開方法について学修する。その際、問題解決型思考から目標指向型思考に転換させる必要性について理解し、高齢者のもてる力を維持・継続させ、潜在している力を顕在化させるために、どのように生活環境にアプローチするかについて学修する。	3年前期
		老年看護学実習Ⅰ	高齢者ケア施設で暮らす高齢者の日常を知るとともに、その人らしい生活の継続・健康の保持増進を可能とするケア、生活を豊かにするケア、高齢者ケアにおける看護職の役割を体験的に理解する。	2年後期
		老年看護学実習Ⅱ	病院に入院中の高齢者を、疾患や障害を有している生活者として幅広くとらえ、高齢者のもてる力を維持・継続させ、潜在している力を顕在化するためのアプローチの実際について学修する。さらに、看護実践をととして、高齢者とその家族が望む生活に向けて主体的に生活できる看護の方向性について考え、学修することができる。	3年後期
		小児看護学概論	小児看護の歴史的背景を基に、現代社会における小児看護の理念や特徴及び子どもと家族を取り巻く社会の概要を学ぶ。また、子どもの成長発達の原理原則および各期の子どもの特徴を形態的・機能的・心理社会的側面から多角的に捉えるとともに、子どもが健康に育つための具体的な援助について学修する。	2年前期
		小児看護方法論Ⅰ	小児看護を実践する上で必要となる新生児期から思春期までの子どもの代表的な疾患の病態、診断、治療について学修する。	2年前期
		小児看護方法論Ⅱ	健康な子どもの理解を基盤に、健康問題や入院にともなう子どもと家族の体験を理解し、健康問題のある子どもと家族がセルフケア能力を高め、その人らしく生活できるような援助や子どもと家族における倫理的課題と看護の役割について学修する。	2年後期
		小児看護方法論Ⅲ	小児看護学概論、小児看護方法論Ⅰでの学修を基盤として、子どもとその家族の健康と課題を総合的に理解し、小児看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度について学修する。具体的には、外来における子ども、急性に経過する子ども、慢性に経過する子ども、障害のある子ども、在宅における子どもとその家族への援助について学修するとともに、健康障害をもつ子どもの事例について看護過程を展開し、子どもとその家族への適切な援助の方法を学修する。	3年前期
		小児看護学実習	あらゆる成長発達・健康レベルにある子どもとその家族についてさまざまな側面から把握する。それを基に、個別性を踏まえ安全・安楽に配慮し、健康の回復、健康の維持・増進、疾病予防のための援助と健康教育の方法について学修する。また、集団の中での健康な小児の成長発達の特徴について子ども園等での生活や養育環境を通して学修する。	3年後期
		母性看護学概論	女性の生涯を通じた母性の健康の保持・増進、及び次世代の健全育成を支援するため、母性看護の基盤となる概念や理論を理解する。また、母性看護の対象をとりまく社会の変遷と現状、母子の健康に関する国際比較や法制度、女性のライフサイクルや健康問題などを学び、母性看護の役割や課題について考察する。	2年前期
		母性看護方法論Ⅰ	女性のライフサイクルの中で、周産期の母子とそのパートナーを中心とした家族の健康に焦点を当て、対象の生理的变化、心理・社会的変化と生活への適応、マイナートラブルや正常から逸脱した時のケアなどを学ぶ。母性看護方法論Ⅰでは、妊娠期と分娩期に焦点を当てる。	2年後期
		母性看護方法論Ⅱ	女性のライフサイクルの中で、周産期の母子とそのパートナーを中心とした家族の健康に焦点を当て、対象の生理的变化、心理・社会的変化と生活への適応、マイナートラブルや正常から逸脱した時のケアなどを学ぶ。母性看護方法論Ⅱでは、産褥期と新生児期に焦点を当てる。また、ウェルネスの視点に基づいた看護過程の展開と母性看護学の援助技術について学修する。	3年前期
		母性看護学実習	妊娠期、分娩期、産褥期にある女性とその子どもを理解する。妊娠、分娩、産褥及び新生児の経過を観察し、正常な経過を助長する看護援助を学ぶ。さらに、子どもを産み育てる家族におこる変化を理解し、援助的人間関係を通して母親役割獲得の過程について学ぶ。そして、これらの実習を通じてウェルネスの視点に基づいた看護援助能力を養う。	3年後期

専 門 科 目 II	専 門 看 護 学	精神看護学概論	精神看護学の対象や基本となる概念、精神看護を实践する上で基盤となる人間関係論、セルフケア論、ストレングスモデルなどの理論・モデルについて学修する。また、精神看護における倫理的諸問題と法的根拠、精神看護の活動の場や専門性について学修する。さらには地域精神保健活動の国内外の動向について概観し、日本の精神保健活動の課題について探究する。	2年前期
		精神看護方法論 I	精神看護学概論での学びを基に、精神障害のある入院治療中の人とその家族を理解し、状態の安定維持、社会復帰に向けた看護援助の方法について学修する。具体的には、精神疾患・障害の特徴と看護について基本的な知識を学修する。そして、精神障害のある人の生物・心理・社会的側面に着目した多角的な視点に基づく基本的な看護を学修する。さらに精神障害のある人とその家族のQOLの向上を目的とした支援のあり方についても学修する。	2年後期
		精神看護方法論 II	精神障害のある人の社会復帰に向けた援助と社会に適応し自立をめざした生活を維持していくための支援の方法について学修する。また、活用できる諸制度、マンパワー、チーム医療などの社会資源の活用方法について学修する。具体的には、自己の振り返り、集団療法、生活技能訓練（SST）、認知行動療法、地域生活支援および精神科訪問看護などについて学ぶ。また、統合失調症をもつ人の事例を用いて看護過程を展開することによって、個別的な看護についての援助のプロセスを学修する。	3年前期
		精神看護学実習	精神科病院および地域リハビリテーション施設等の機能を知るとともに、精神障害のある人の回復過程、社会復帰および状態安定の維持に必要な看護援助について学修する。具体的には、入院治療を必要とする精神障害のある人とその家族に対する看護を学ぶ病棟実習と、精神障害と共生しながら地域で社会復帰、状態の維持に必要な看護を学ぶ地域実習で展開する。病棟実習における精神障害のある人の把握においては、全体的印象、背景情報、身体機能、精神状態、発達課題とその達成、受けている医療に対する反応、持っている力の7つの側面から情報収集し、健康課題を明確にし、一つ以上の健康課題について対象とともにケアプランを立案し看護を実施・評価する。地域実習においては、デイケア実習や就労支援の実際を通じて精神看護の役割を探求し、倫理観を養う。	3年後期
統 合 科 目	統 合 看 護 学	看護基礎ゼミ	大学で学ぶために必要なスタディスキル、アカデミックスキルを修得する。大学生の現状や諸問題を題材に取り上げ、求められる学士力と学習方法について検討し、今後の大学生活の見通しを立てる。	1年前期
		看護応用ゼミ	3年次までの講義、演習、臨地実習での学修を振り返り、各自の社会人基礎力と看護実践力を検討する。さらにキャリアデザインを描き、その実現に向けた職場選択、臨床への適応上の課題、専門職としての主体的な継続教育などを検討する。	4年前期
		災害看護学	災害医療の基本的な対応体制、災害看護における看護師の役割りの実際について学び、市民としての災害時の行動、医療従事者としての基本的な対応方法、および災害発生時に求められる看護技術を修得する。具体的には、災害に対する政策、災害の分類、災害サイクル、災害時の心身の健康障害、災害後の心の状態とケア、トリアージの方法、災害時のアセスメントなどについて学ぶ。また、災害時の看護に対する責任と役割を学習する。	1年前期
		感染看護学	感染が成立する要件や、標準予防策・感染経路別予防策の概要、感染予防の技術に関連する知識などを学修し、看護における感染予防の重要性を認識する。また、国内外の感染対策の動向について学修し、感染予防の観点から看護師の果たすべき責務と役割について理解する。	1年前期
		家族看護学	看護では、援助の対象者とともに家族を含めた援助が求められている。本科目では、家族看護とは何か、家族看護学の目的、家族の健康維持にとって看護職の果たす役割等家族看護学の基礎的知識について学習する。さらに、家族看護アセスメント、家族看護の支援計画ならびに実施・評価のプロセスについても学習する。	1年後期
		国際看護学	グローバル化の進む社会において、人間の安全保障の側面から、看護職が国内外で果たすべき役割について学ぶ。また、外国人と接する機会の多い地域特性を活かし、他国の人々の社会背景や生活環境に関心をもち、看護職が寄与できる健康支援について学ぶ。さらに、“Universal Health Coverage”の目標を達成するための解決方法について国際保健医療協力の観点から学修する。	2年前期
		看護管理学 I	看護専門職として管理に関する基礎的知識を修得し、看護管理上の問題を解決する方策の検討方法を学ぶ、(リーダーシップ、マネジメントを含む) また、医療の国際的動向と我が国の特色を理解し、医療システム、医療ケアの質に関する概念を学ぶ。看護者としてのリーダーシップ、調整、カウンセリング、コンサルタント、教育意志決定などの臨床実践能力を構築するための理論を体系的に学び、看護マネジメントに関する視点および実践能力を高める。	3年前期

総合科目 統合看護学	看護管理学Ⅱ	高度化・複雑化を続ける医療の現場における、療養者や医療者の安全について学ぶ。主に医療事故発生のメカニズムやリスクの評価、組織における事故防止対策や国の医療安全への取組みなどのリスクマネジメントについて理解し、安全文化の醸成について考える。	4年前期
	在宅看護学概論	在宅看護の理念・目的、在宅看護の背景、変遷など在宅看護学の基本的概念や歴史について学ぶ。さらに、現行の在宅看護に関わる諸制度を理解し、在宅看護の場、活動内容、他職種、他機関との連携・協働の必要性を学習することにより、少子高齢化社会において、地域で活動する訪問看護師への社会がもつニーズと、訪問看護師の果たす役割を理解する。	2年後期
	在宅看護方法論Ⅰ	訪問看護活動に必要な在宅看護や在宅医療技術について最新の知識、技術を学び、実践力を養う。また療養者の在宅生活の実際を知り、個別性の高い在宅生活の状況に応じた療養者への訪問看護支援の多様性を理解する。	2年後期
	在宅看護方法論Ⅱ	既修の各看護専門領域での学修を統合して再度学修する。的確な情報収集とアセスメントを通して、誰もが確実に実践できる具体的な看護過程を在宅の場で展開することによって、在宅看護実践力の基礎を身につける。	3年前期
	在宅看護学実習	在宅療養者とその家族に対する看護実践を通し、対象者の価値観や生活を尊重した看護過程を学修する。在宅療養者を中心とする保健・医療・福祉などの多職種が連携し、地域包括ケアシステムの中のチームケアを理解し、地域において活動する看護職の機能と役割を学修する。	3年後期
	地域看護学Ⅰ	地域で生活する人々の健康の保持増進や生活の質の向上を目指して展開される地域看護について、基本的な考え方、活動の場、活動方法、看護職の役割と連携について学修する。	2年後期
	地域看護学Ⅱ	公衆衛生看護学の教育課程における保健師としての資質・能力について学修する。具体的には、保健師の使命、倫理、課題を探究し実践するために必要な知識と能力、協働、質の補償と安全、歴史の変遷と社会の動き、生涯にわたる学習と探究方法について学ぶ。	2年後期
	地域看護学実習	地域で生活する人々の健康の保持増進や生活の質の向上を目指して展開される地域看護活動の場、活動の実際、看護の役割と連携について実習を通して学修する。	4年前期
	リハビリテーション看護論	リハビリテーションの理念を理解し、日本や海外におけるリハビリテーション看護について、歴史の変遷をふまえて基本的知識と技術を学修する。リハビリテーションチームの特徴とチームにおける看護の役割・機能について学修する。	3年前期
	看護研究Ⅰ	看護実践における研究の重要性を理解し将来的な種々の研究活動の基盤を作ることを目的に、看護研究の目的と意義、倫理的配慮の重要性、看護実践と研究の関連性、研究の進め方など看護研究の基礎的事項について学習する。	4年前期
	看護研究Ⅱ	看護研究Ⅰでの学びに基づき、関心のあるテーマについて探究するための、文献研究、事例研究、実験・調査研究などの研究計画書を、指導を受けて作成する。	4年後期
	看護研究Ⅲ	看護研究Ⅱで作成した研究計画書に基づき、指導を受けながら研究論文を作成する。	3年前期
	実践看護論Ⅰ (がん看護)	がん患者およびその家族が迎える病期のプロセスの理解を深め、その人らしく生きるための患者の意思決定支援や終末期ケアなど、現代のがん看護における課題を踏まえながら看護師の役割・専門性について学修を深める。また、その過程で自身の看護観や倫理観が高められることを目標とする。	4年前期
	実践看護論Ⅱ (認知症看護)	講義、臨地実習での学びを発展させる形で、認知症看護の実践-評価-理解の深化を目標とする。認知症治療の最新動向を知るとともに、薬物療法と非薬物療法の特徴と看護の役割について理解する。非薬物療法を体験的に理解し、臨床実践における有用性と限界について検討する。	4年前期
	実践看護論Ⅲ (小児の専門性)	既習の知識や臨地実習での体験を統合し、小児看護における専門性を発展させていく能力を培うことを目標とする。そのために、社会の動向を踏まえた上で、現代の小児医療・小児看護の抱えている課題や今後の展望についてさまざまな観点から討議し、学修を深めていく。	4年前期



統合科目	統合看護学	実践看護論Ⅳ (ウイメンズヘルス)	女性のライフサイクル各期の特徴や健康問題を理解するとともに、女性の生涯における健康の促進及び向上につながる看護を包括的に学ぶ。ウイメンズヘルスの考え方、ウイメンズヘルスに関する変遷と現状、リプロダクティブ・ヘルス/ライツをめぐる倫理的問題について考える。また、ヘルスプロモーションの視点から、各々の対象に必要な支援や指導の実際を学ぶ。	4年前期
		実践看護論Ⅴ (バイサイコソシアルアプローチ)	既修の「コミュニケーション論」、「心理学」、「精神看護学概論」、「精神看護方法論Ⅰ」、「精神看護方法論Ⅱ」科目と関連を持ちながら、学生が精神看護の幅の広さを理解し、精神的側面についてさまざまな場面において対応できる看護を学修することをねらいとする。具体的には、アサーションスキル、ストレス軽減技術、災害時のメンタルヘルス、包括的暴力防止プログラム(CVPPP)、隔離拘束時の看護などについて学修する。	4年前期
		実践看護論Ⅵ (補完療法とフットケア)	健康上の課題と共存しながら生活をしている様々な療養者と家族に対する補完療法とフットケアの知識と援助技術を、看護の視点から学修する。	4年前期
		実践看護論Ⅶ (異文化看護)	看護者が文化の異なる対象者へのケア提供を行う際、看護者には異文化間能力が必要とされている。すなわち、ケアの受け手が有する文化に敏感になり、それに合致するケアを提供する能力が求められる。この概念は文化が人間の生活様式の全体あるいは統一体に焦点をあてているためである。文化を考慮したケアは、宗教(スピリチュアル)、親族関係、政治、法律、教育、技術、言語、背景となる環境や世界観といった全てを尊重するものである。これらを含め異文化看護を理解するための基礎看護論や国際看護協力について学ぶ。	4年後期
		統合実習	既習の看護学実習で学んだ知識・技術を基盤として、看護を統合し発展させるために自己の学習課題を明らかにし、実習領域を学生が自ら選択し、自己の学習課題に沿って看護を実践し、評価する。	4年前期
公衆衛生科目	公衆衛生看護学領域	公衆衛生看護活動論Ⅰ ※	公衆衛生看護における対象の捉え方、健康課題の特徴について学び、対象別の公衆衛生看護過程展開と活動方法について学修する。	3年後期
		公衆衛生看護活動論Ⅱ ※	子どもと親、成人期、高齢期の人々への支援、心の健康への支援、障害を持つ人々・感染症に罹患している人々、多様な文化的背景を持つ人々への支援について、行政における活動を中心に学修する。	4年前期
		公衆衛生看護学演習Ⅰ ※	地域診断、施策化と事業化、社会資源の開発、システム化について、演習を通して具体的に学修する。	4年前期
		公衆衛生看護学演習Ⅱ ※	個別から集団までを対象として行う公衆衛生看護活動における、アセスメント、コミュニケーション、生活支援や健康支援について演習を通して具体的に学修する。	4年前期
		学校保健・産業保健論 ※	我が国の産業保健および学校保健の歴史の変遷について学修する。それを踏まえ、産業保健の現状、諸制度、対象、看護職の職務・役割ならびに活動展開の実際について学修する。また、海外の産業保健活動を学び我が国の産業保健活動の課題と将来展望について学修する。学校保健については、学校保健の概念、安全、関連職種、組織、関連法規ならびに養護教諭の専門性などを学修する。 (伊藤優子/2回) 養護教諭の活動の実際について学修する。	3年後期
		公衆衛生看護管理論 ※	公衆衛生看護管理の構成要素、専門的自律と人材育成方法について、具体的には、公衆衛生看護管理の目的と機能、情報管理、地域ケアの質の保証、人事管理、予算管理、組織運営と管理および保健師教育について学修する。健康危機管理については、理念と健康危機管理の目的や制度・システム、関係法令や行政や関連機関との連携、危機管理の対象や健康危機管理における保健師の役割・機能、保健活動の実際について学修する。	4年前期
		公衆衛生看護学実習Ⅰ ※	神奈川県内の保健所等行政機関における各種保健福祉事業の見学・活動の一部への参加経験を通して、公衆衛生看護の理念、対象、活動方法に関わる知識や技術を統合し、公衆衛生看護活動を実践する上での基盤となる能力形成を行う。加えて、保健師としての使命や責任について考える。	4年前期
		公衆衛生看護学実習Ⅱ ※	多様な公衆衛生看護活動の場において、各種事業の見学・活動の一部への参加経験を通して、公衆衛生看護学実習の学びである知識や技術を統合する。	4年前期